



# 国際社会及び日本における平和と民主主義に関する研究

[キーワード: 平和、戦争、安全保障、民主主義、立憲主義、ジャーナリズム、国際協力]

教授 饗場 和彦

## <研究の概要>

1 国際安全保障: 戦争や民族紛争、また紛争地で残虐行為が起きる要因と構造、そして、そうした状況に対する対処、和平に転換する平和構築の方策などを研究している。とくに、国内で起きる大規模で深刻な人道危機に対して、国連や他国が強制的に武力介入して市民を保護する人道的介入について、継続的に研究している。

2 日本の安全保障: 冷戦終結後、日本の平和と安全をめぐる問題も変質した。湾岸戦争の混乱や国連PKOへの参加、日米同盟の変容、テロの拡散、中国や北朝鮮の「脅威」などが問題になる中、安倍政権下では安保法制に代表されるように、軍事力優先・日米同盟強化の方針がとられている。こうした政策が日本の平和に有益なのか、多面的に研究している。

3 ジャーナリズムと民主主義: 日本の報道の自由度ランキングが近年急落しているように(2017年は世界72位=「国境なき記者団」発表)、政府によるメディア介入や報道機関の萎縮が問題視されている。新聞記者の経験も踏まえながら、民主主義にとって不可欠な報道の自由、ジャーナリズムの問題を研究している。

4 国際協力: 紛争や貧困で苦悩する人々が後を絶たない国際社会において、NGOや国連、政府機関、企業などがどのような支援・協力ができるか、実践的な観点から研究している。

5 教育と政治: 18歳選挙権の導入をきっかけに主権者教育が広がっているが、民主主義、立憲主義、平和主義などを教える学校教育・市民教育には課題が多い。政治を教える上での本質的な要諦は何か、研究している。

## <略歴>

滋賀県生まれ。1986年、早稲田大学法学部卒業、読売新聞社記者。1995年、英国・ブラッドフォード大学大学院修了(MA in Peace Studies)。1999年、大阪大学大学院国際公共政策研究科修了(博士)、同年から大阪大学助手。2000年から徳島大学総合科学部、講師、助教授、教授。2010年、NZ・カンタベリー大学客員研究員。2015年、カナダ・ウオータールー大学客員研究員。

## <主要研究業績>

- ・饗場和彦(2007)『人道的介入に関する理念面および実践面における考察』(博士学位論文、大阪大学)、1-230。
- ・饗場和彦(2007)「ルワンダにおけるジェノサイド(一九九四年)」松村高夫・矢野久『大量虐殺の社会史—戦慄の20世紀』ミネルヴァ書房、229-280。
- ・饗場和彦(2004)「人道的介入」磯村早苗・山田康博『いま戦争を問う—平和学の安全保障論』法律文化社、123-157。
- ・饗場和彦(2018)「平和学とは、平和とは—〈理想と現実〉〈理性と情動〉の交錯」『大阪女学院大学紀要』14号、103-120。
- ・饗場和彦(2016)『『平和安全法制』(安保法制あるいは『戦争法』)の是非を考察するための総論的枠組み』『徳島大学社会科学研究』30号、1-39。
- ・AIBA, Kazuhiko (2016) “An erosion of Japan’s Security Policy: New Security Bills, the Constitution, and Prime Minister Abe”, *Journal of University Extension -Tokushima University-*, vol.25, 15-28.
- ・饗場和彦(2012)「ボランティア活動の意味と有用性—命を捨ててまで外国人を助けるのは偽善か?」『徳島大学社会科学研究』25号、45-52。
- ・饗場和彦(2005)「平和構築支援におけるセキュリティ・マネジメント—援助従事者の安全をどう高めるか」『大阪女学院短期大学紀要』35号、17-35。
- ・饗場和彦(2005)「平和構築に自衛隊をどう生かすか」『論座』2005年4月号、232-239。
- ・饗場和彦(2002)「人間の安全保障論と人道的介入」『国際安全保障』30巻3号、国際安全保障学会、42-68。

専門分野: 政治学(国際政治、安全保障、国際協力、ジャーナリズム)

E-mail: aibak@@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7186 Fax: 088-656-7189

詳細情報: <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/60550/profile-ja.html>

